

2019年3月期 第3四半期 決算補足説明資料

株式会社RVH

2019年2月14日



1.	2019年3月期 第3四半期連結業績ハイライト	P.2
2.	2019年3月期 第3四半期セグメント別実績	P.8
	レディスサービス事業：2019年3月期 第3四半期実績	P.10
	レディスサービス事業：ブランド別トピックス	
	ミュゼプラチナム	P.11
	たかの友梨ビューティクリニック	P.14
	コロリー	P.17
	ラブリークィーン	P.19
	マキア	P.20
	ブランド別出退店実績	P.21
	その他の事業：2019年3月期第3四半期実績	P.22
3.	2019年3月期通期連結業績予想の修正	P.23

1. 2019年3月期 第3四半期 連結業績ハイライト

2019年3月期 第3四半期連結損益の状況

(単位：百万円)

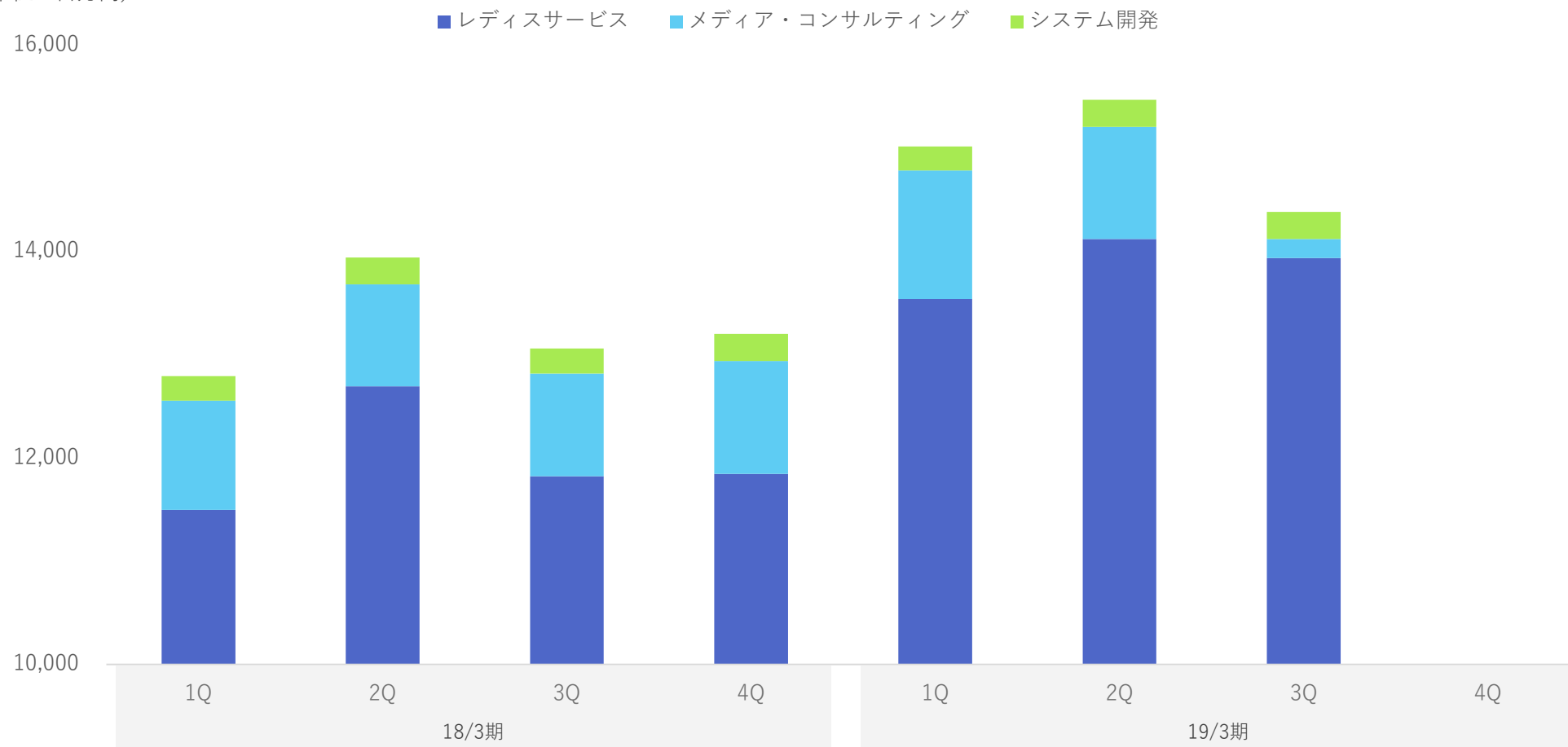
科目／期別	2018/3期 3Q実績	2019/3期 3Q実績	増減	主な増減要因
売上高	39,794	44,877	5,082	ミュゼプラチナム物販、コロリー施術及び物販増収 期首よりアパレル部門「ラブリーキーン」寄与
E B I T D A	3,325	1,424	△1,901	営業利益+のれん償却費1,352百万円 + 減価償却費 968百万円
営業利益	859	△897	△1,756	美容脱毛部門における広告宣伝費、人件費増加
経常利益	961	△795	△1,756	
法人税等合計	1,058	791	△266	法人税等調整額609百万円 ※以下参照
親会社株主に帰属する 四半期純利益	△94	△2,745	△2,650	貸倒引当金繰入額713百万円、子会社株式売却に伴う 債権売却損151百万円を特別損失計上

※法人税等調整額について

法人税等調整額の計上は、主に、ミュゼ社における旧会社からの事業譲受により生じた税務上ののれんにつき、税務上の損金算入額に応じて、対応する繰延税金資産を取り崩している影響によるものです。なお、当該税務上ののれんは発生から5年間の定額法により償却しており、償却が終了することにより、当該繰延税金資産の取崩しによる法人税等調整額の計上も終了します。

アパレル部門追加、ミューゼ物販・コロリー施術及び物販好調により累計増収
子会社株式譲渡によりメディア・コンサルティング事業は前年同期比減収

(単位：百万円)

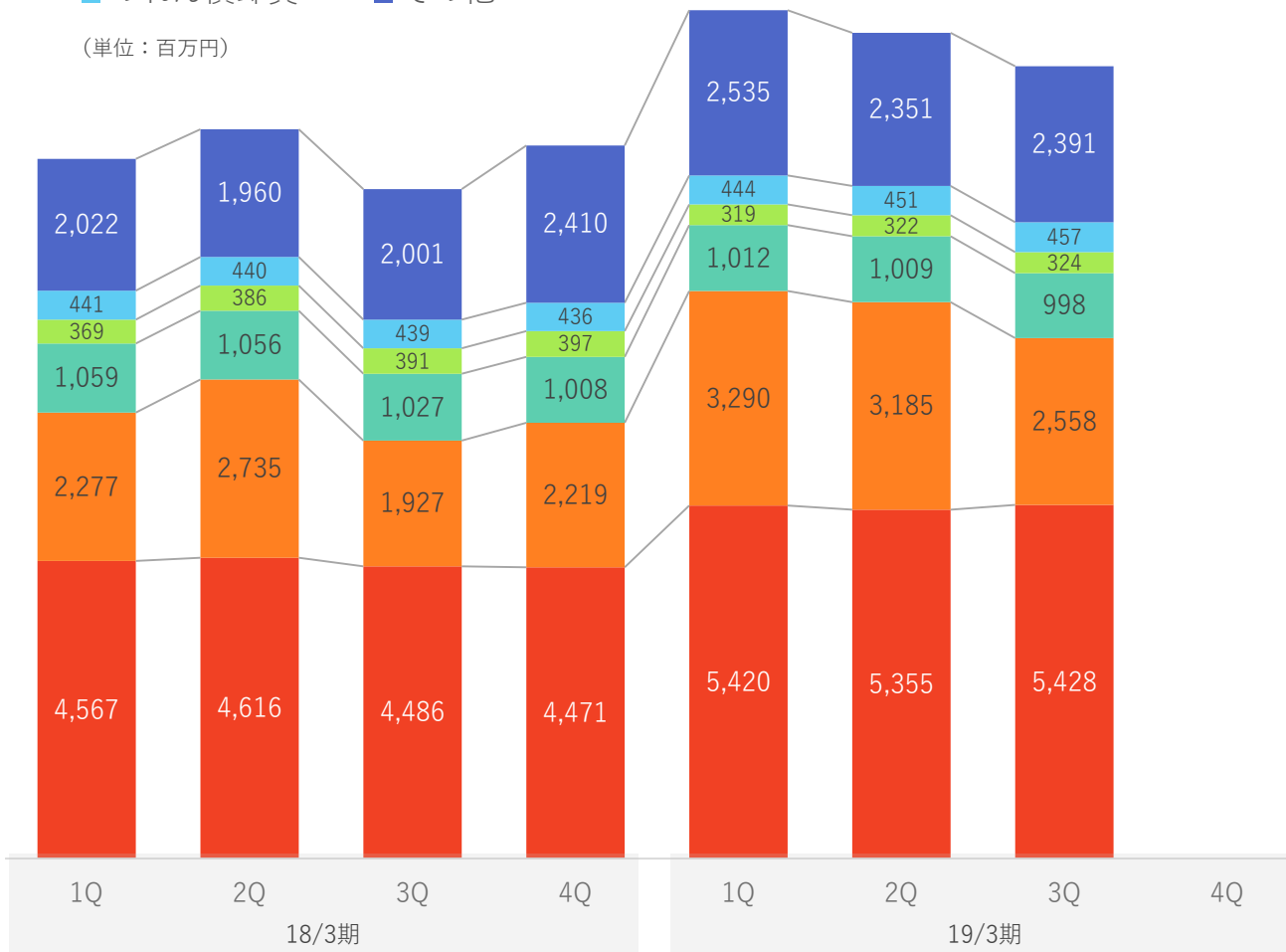


※外部売上のみ

主要販売費及び一般管理費の推移



(単位：百万円)



【主な増減要因】

人件費

- ・ 期首グループ会社追加 (↑)
- ・ 美容脱毛部門人員増 (↑)

広告宣伝費

- ・ 美容脱毛部門の
広告出稿強化 (↑)

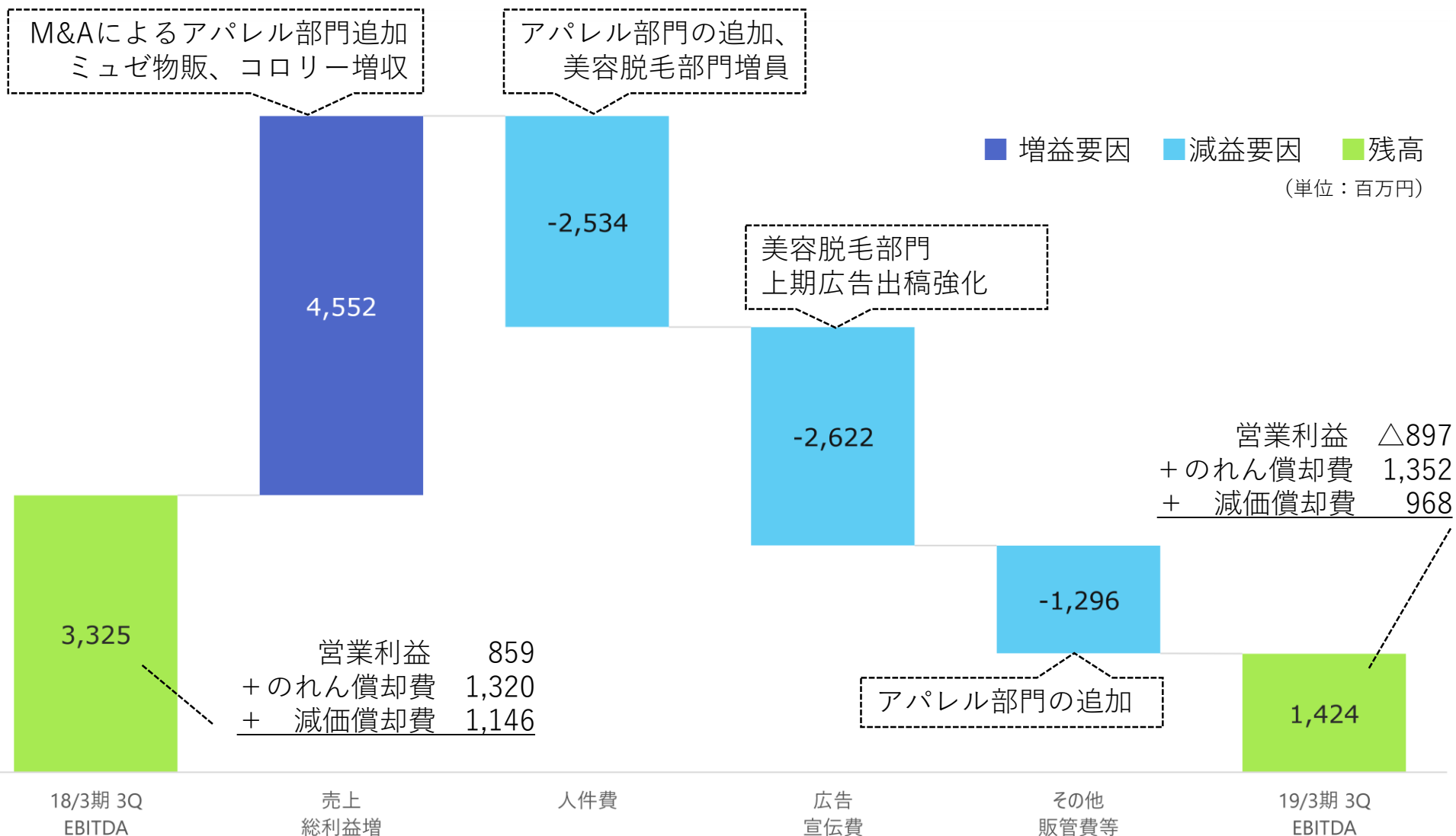
地代家賃

- ・ ミュゼ、マキア出店強化 (↑)
- ・ たかの友梨ブランド
店舗数減少 (↓)

その他

- ・ 期首グループ会社追加 (↑)
- ・ 3Qグループ会社減少 (↓)

対前年同期EBITDA 増減要因



2019年3月期 第3四半期連結貸借対照表の推移

連結子会社株式の譲渡により売掛金、未収金、買掛金等が減少
美容サービス契約獲得により前受金が増加

(単位：百万円)

	2018/3期 期末	2019/3期 3Q末	増減	主な増減要因
流動資産	29,052	28,555	△497	
現金及び預金	5,531	2,367	△3,164	通常支出 美容サービスでの自社ローン取扱の増加
売掛金	11,973	11,864	△108	美容サービス契約獲得の増加等で46億円増 子会社連結除外で48億円減
商品及び製品	2,353	3,055	702	物品売上増加に伴う在庫増加
未収金	7,196	8,961	1,756	子会社売却代金の未収
固定資産	50,212	50,759	547	
流動負債	50,702	53,622	2,919	
買掛金	1,865	903	△961	子会社売却による減少
前受金	39,379	44,205	4,825	美容サービス契約獲得の増加
固定負債	16,336	16,209	△126	
純資産	12,225	9,482	△2,742	親会社株主に帰属する四半期純損失の計上
総資産	79,264	79,314	50	

2. 2019年3月期 第3四半期 セグメント別実績

セグメント別損益の状況

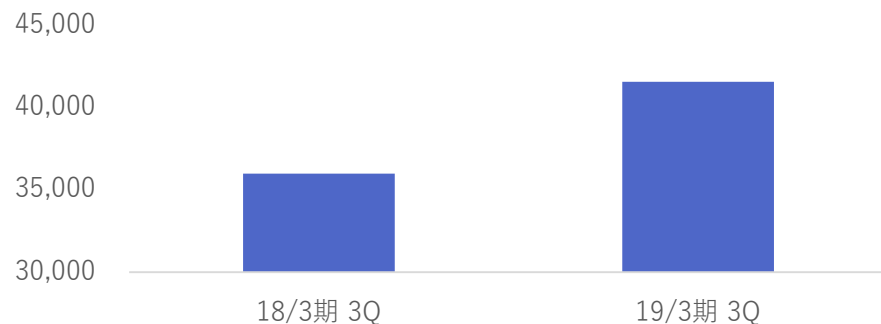
レディスサービス事業は部門追加により増収も、広告費・人件費増により減益
メディア・コンサルティング事業は子会社株式譲渡により減収減益

(単位：百万円)

科目／期別	2018/3期 3Q実績	2019/3期 3Q実績	対前年同期 増減	対比 (%)
売上高	39,794	44,877	5,082	112.7
レディスサービス事業	36,018	41,610	5,592	115.5
メディア・コンサルティング事業	6,315	5,254	△1,060	83.2
システム開発事業	765	791	26	103.4
(連結調整等)	△3,304	△2,780	524	—
EBITDA	3,325	1,424	△1,901	42.8
レディスサービス事業	3,078	1,299	△1,779	42.2
メディア・コンサルティング事業	192	54	△138	28.1
システム開発事業	20	13	△7	63.9
(連結調整等)	33	57	23	—
セグメント損益	859	△897	△1,756	—

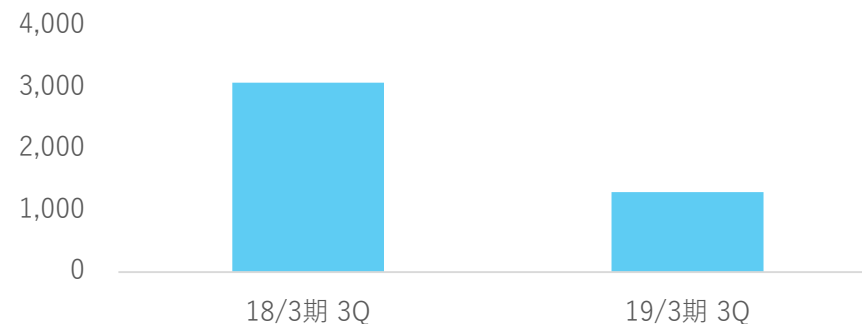
(単位：百万円)

売上高



(単位：百万円)

EBITDA



◆売上高 前年同期比 115.5%

ブランド別前年同期比：

ミュゼプラチナム 103.5%、たかの友梨 96.1%、コロリー 280.4%、マキア 167.2%

ミュゼプラチナム 施術売上高 前年同期比90.2%、物販売上高 同188.4%

たかの友梨ビューティクリニック 施術売上高 87.8% 物販等売上高 同108.7%

アパレル部門として株式会社ラブリーキーンの業績が期首より寄与

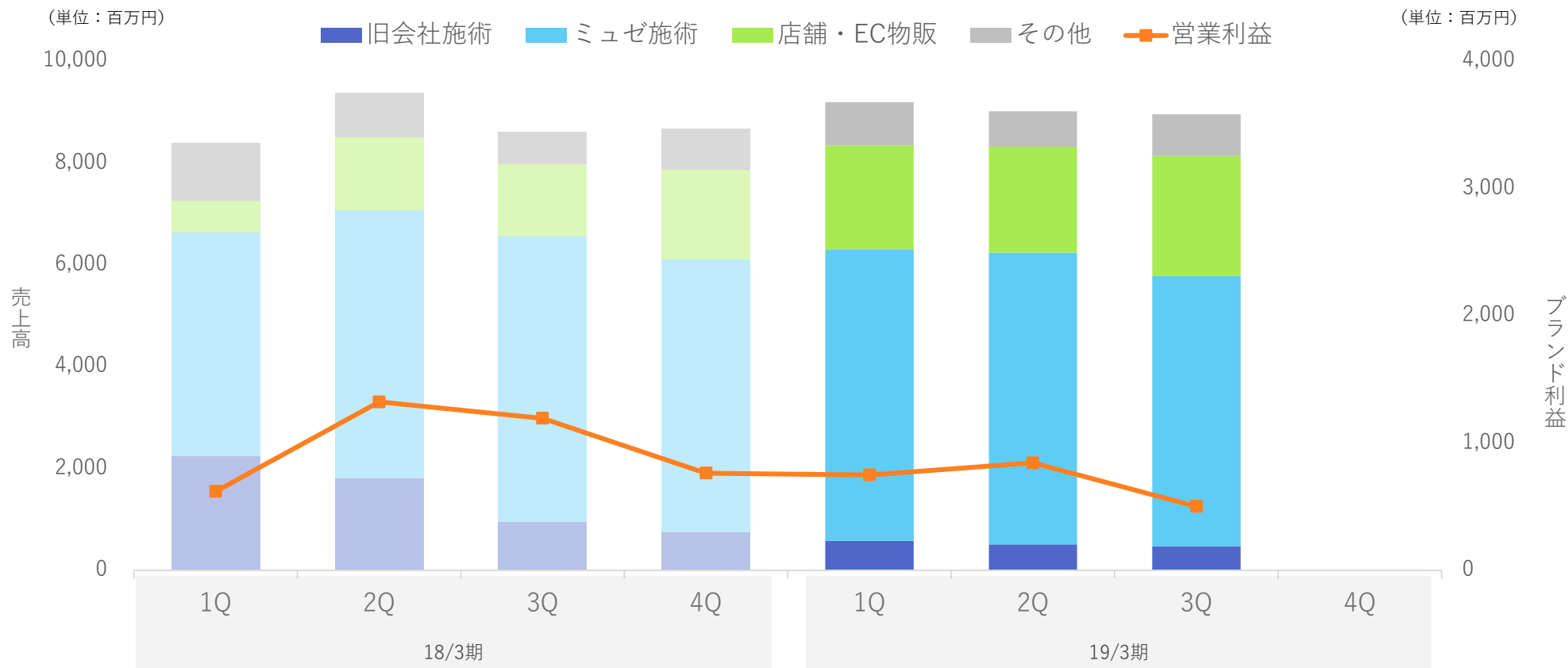
◆セグメントEBITDA 前年同期比 42.2%

美容脱毛部門における広告出稿強化等により前年同期比減益

レディスサービス事業：ブランド別トピックス ミュゼプラチナム

◆売上高の内訳及び推移

施術売上は前年同期比90.2%、物販売上は同188.4%で引き続き好調推移
 人員増加及び商品販売強化に伴う人件費、顧客契約獲得に向けた広告費増加により
 営業利益は同66.7%で推移

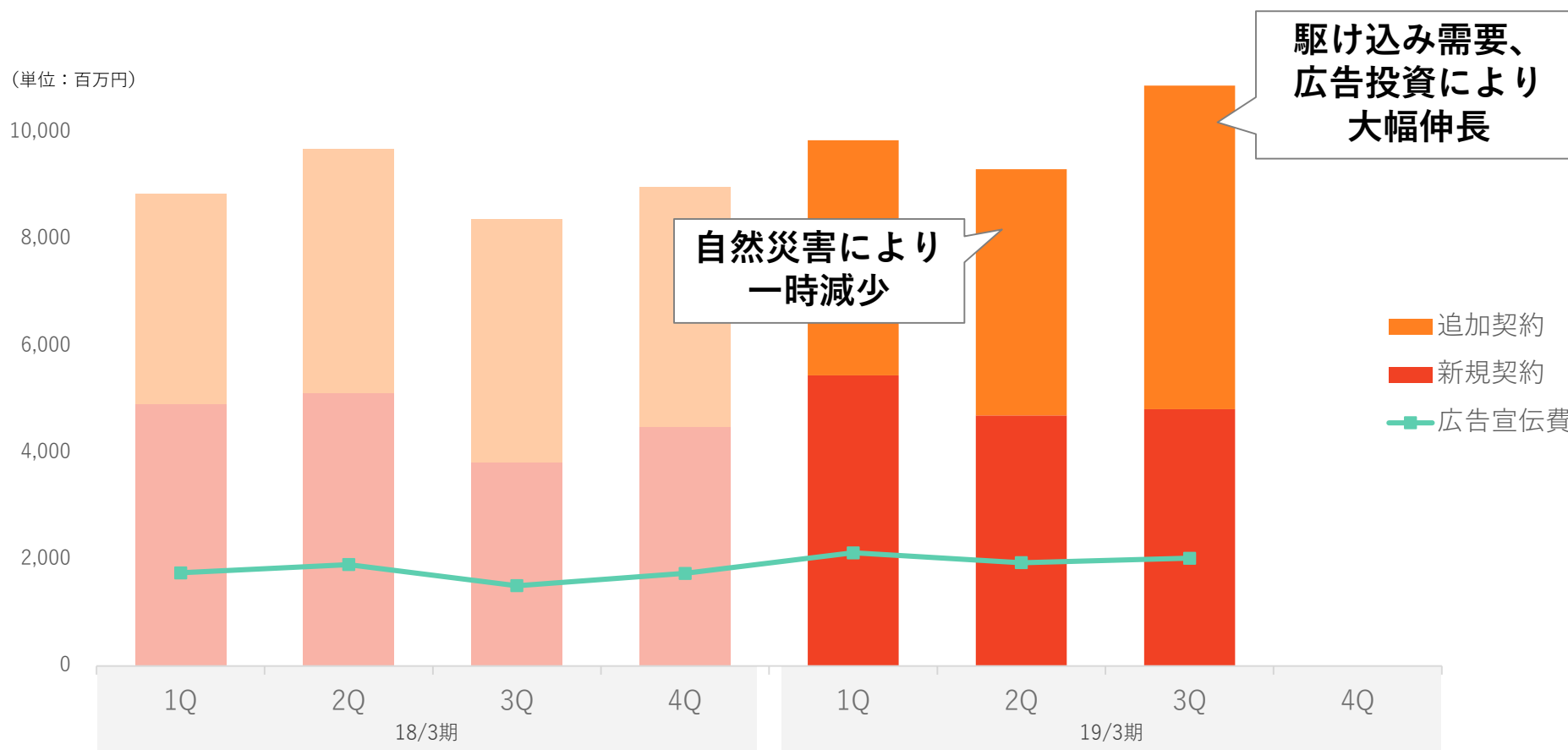


レディスサービス事業：ブランド別トピックス

ミュゼプラチナム

◆契約獲得高の推移

「通い放題コース」年内終了に伴う駆け込み需要により、契約高大幅伸長
反響増加により第2四半期に引き続き積極的広告宣伝投資を実施

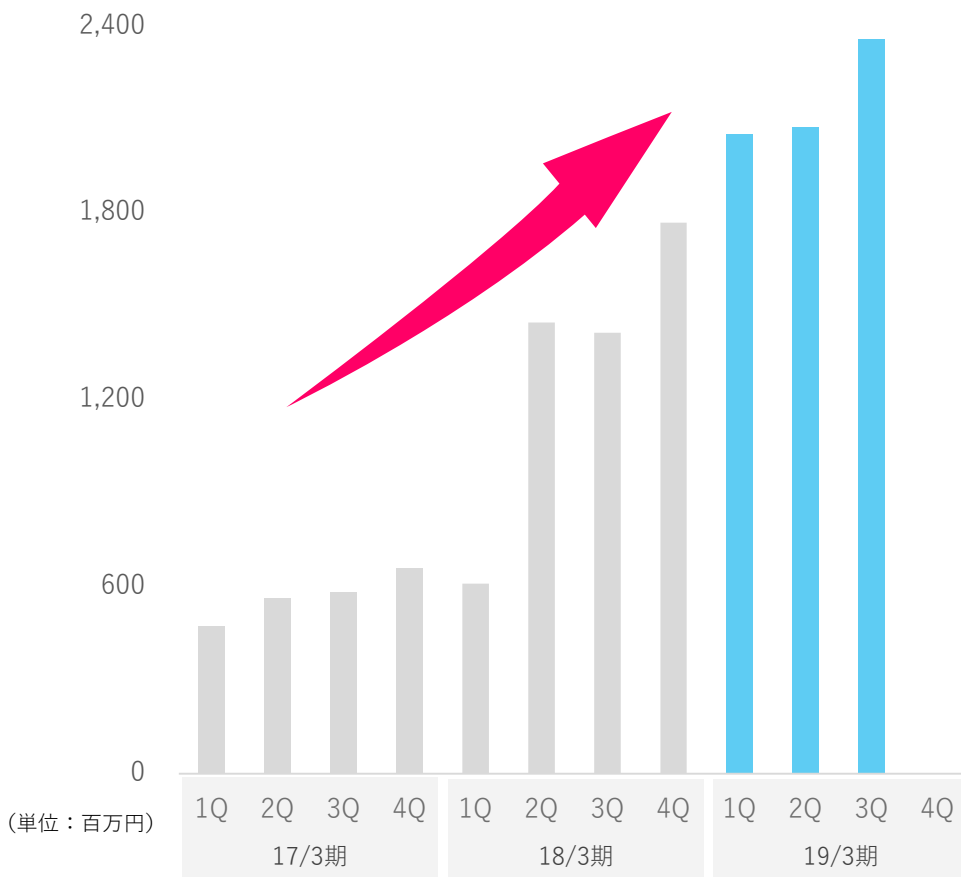


レディスサービス事業：ブランド別トピックス

ミュゼプラチナム

◆物販売上推移

契約高の伸長に伴い、物販売上も好調
前年同期比188.4%で推移



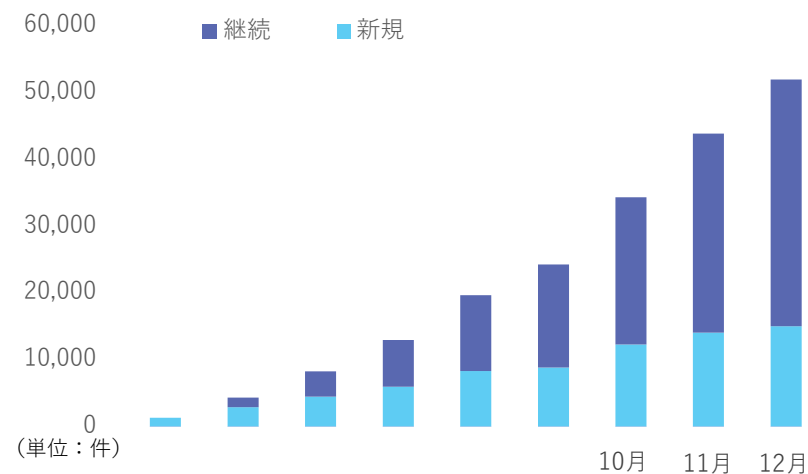
新商品ラインナップ

MC PLボディケアクリームEX
MCフェイシャルトリートメントマスク

「デリケートケアシリーズ」
デリケスキン



コスメ定期コース推移



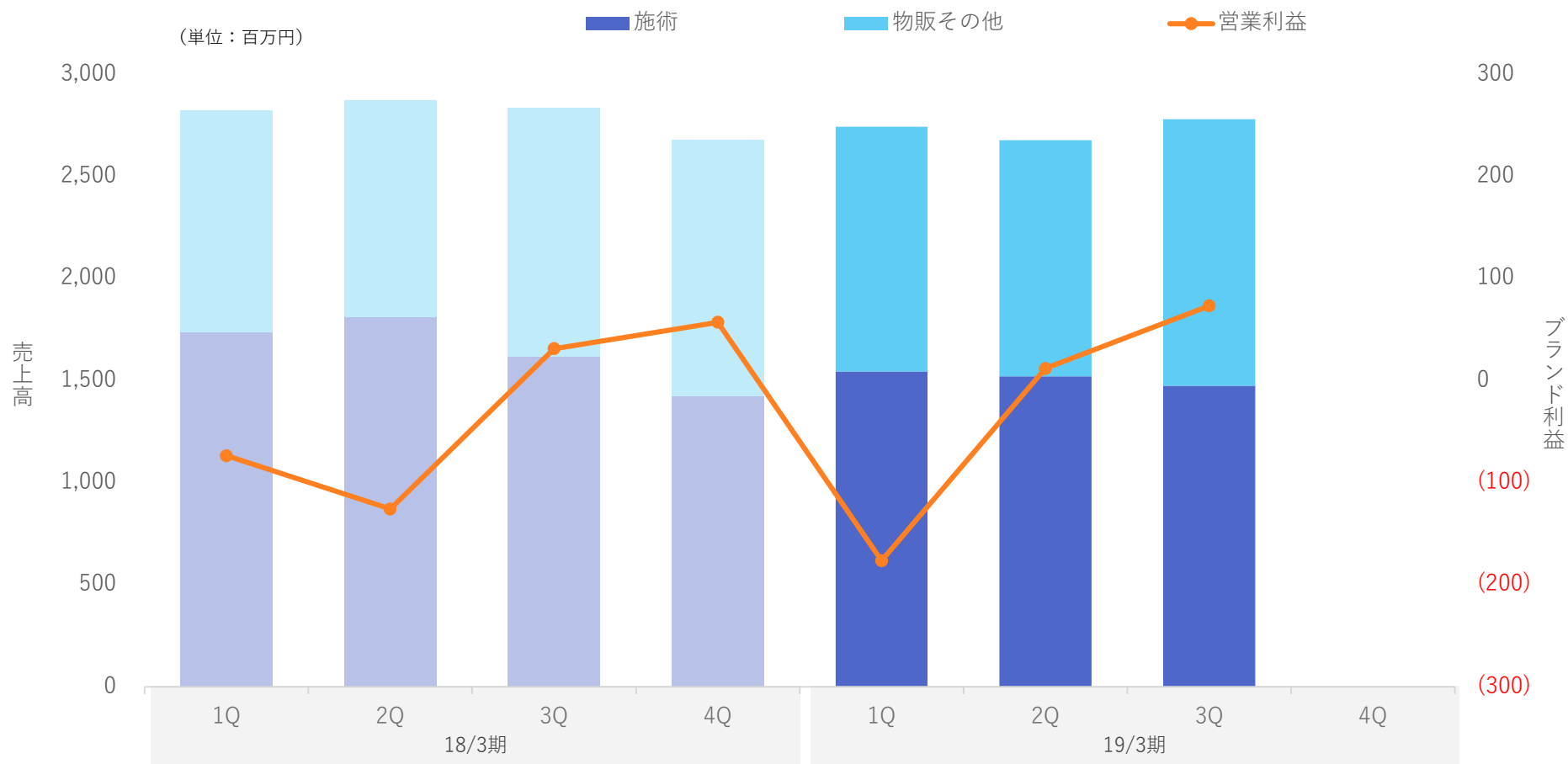
レディスサービス事業：ブランド別トピックス

たかの友梨ビューティクリニック

◆売上高の内訳及び推移

コスト削減によりブランド利益が前年同期および前四半期から改善

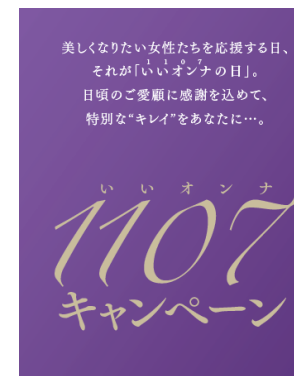
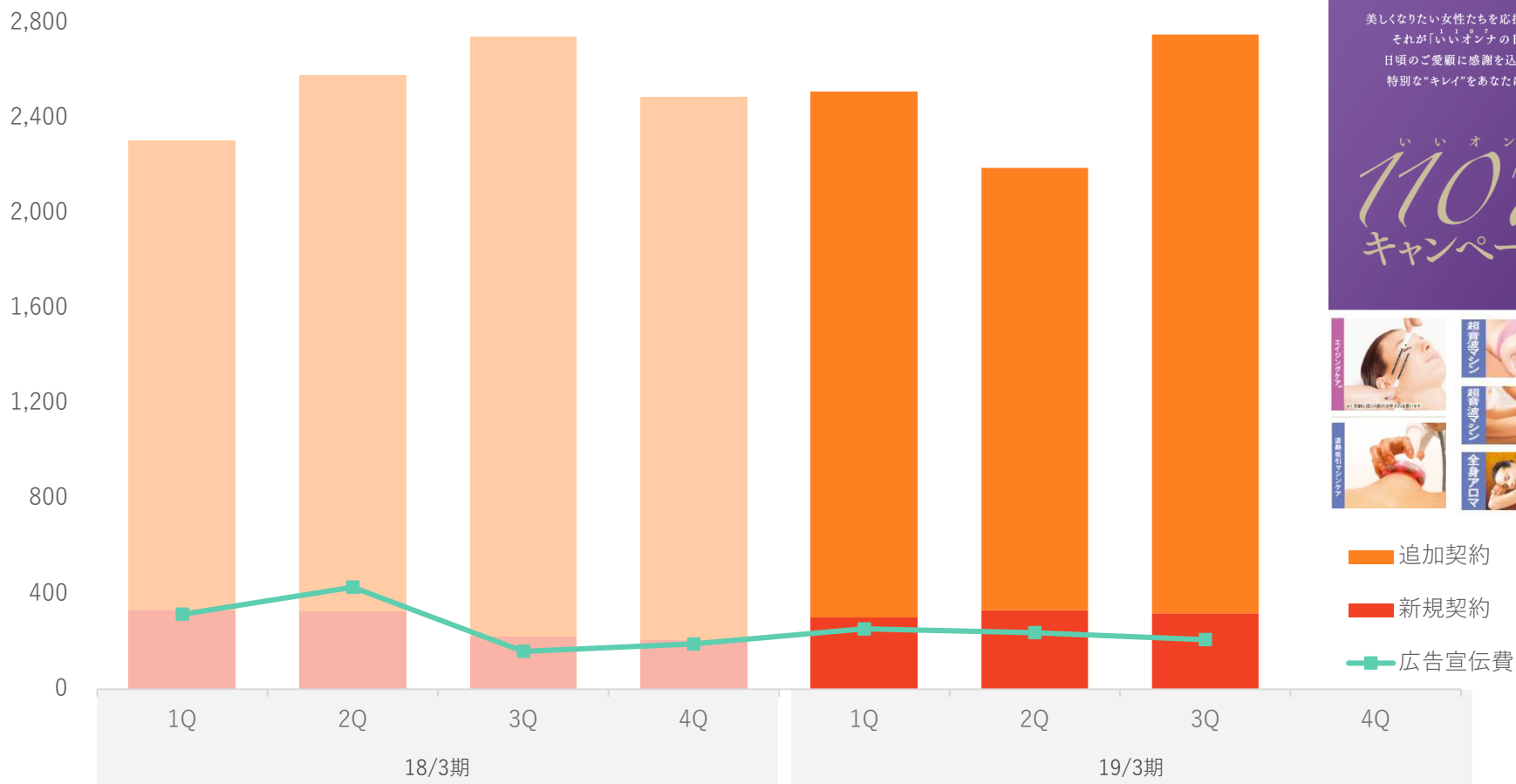
店舗数減少及び人材不足により施術売上高は前年同期から減少も、物販は好調推移



◆契約獲得高及び広告宣伝費の推移

店舗数減・広告宣伝費削減も、既存顧客向けキャンペーンにより
契約獲得高が大幅伸長、前四半期比125.5%で推移

(単位：百万円)



- 追加契約
- 新規契約
- 広告宣伝費

◆主な取り組み等

引き続き店舗統廃合を実施

5店舗閉鎖、1店舗移転リニューアル
→3Q末店舗数は83店舗（前年同期末91店舗）

2018年11月 青山本店リニューアルオープン



各種人事施策を実施

- ・管理職者の担当エリア細分化
→人員数減少も、一人当たり生産性が向上
- ・新人、中堅社員への研修強化
- ・募集媒体拡大、インターンシップ開始
→採用強化及び離職防止による
人員確保を目指す

新商品ラインナップ



■商品概要

- ・商品名：たかの友梨エステファクト
「GDオイルインセラム」
- ・内容量：30mL
- ・定 価：12,960円(税込)



■商品概要

- ・商品名：たかの友梨エステファクト
「ジュエリーパクトSP」
- ・内容量：12g
- ・定 価：[本体]7,884円(税込)
[レフィル]5,400円(税込)

■同口別売



- ・商品名：たかの友梨エステファクト
「チークカラー(コーラルピンク)」
※布ケース・ブラシ付き
- ・内容量：10g
- ・定 価：7,560円(税込)



- ・商品名：たかの友梨エステファクト
「クリミーアイシャドウベース
(シャイニーシルバー/ゴールドベージュ)」
- ・内容量：約3g
- ・定 価：3,240円(税込)



■商品概要

- ・商品名：たかの友梨エステファクト
「ミルキーローションV1」
- ・内容量：180mL
- ・定 価：12,960円(税込)

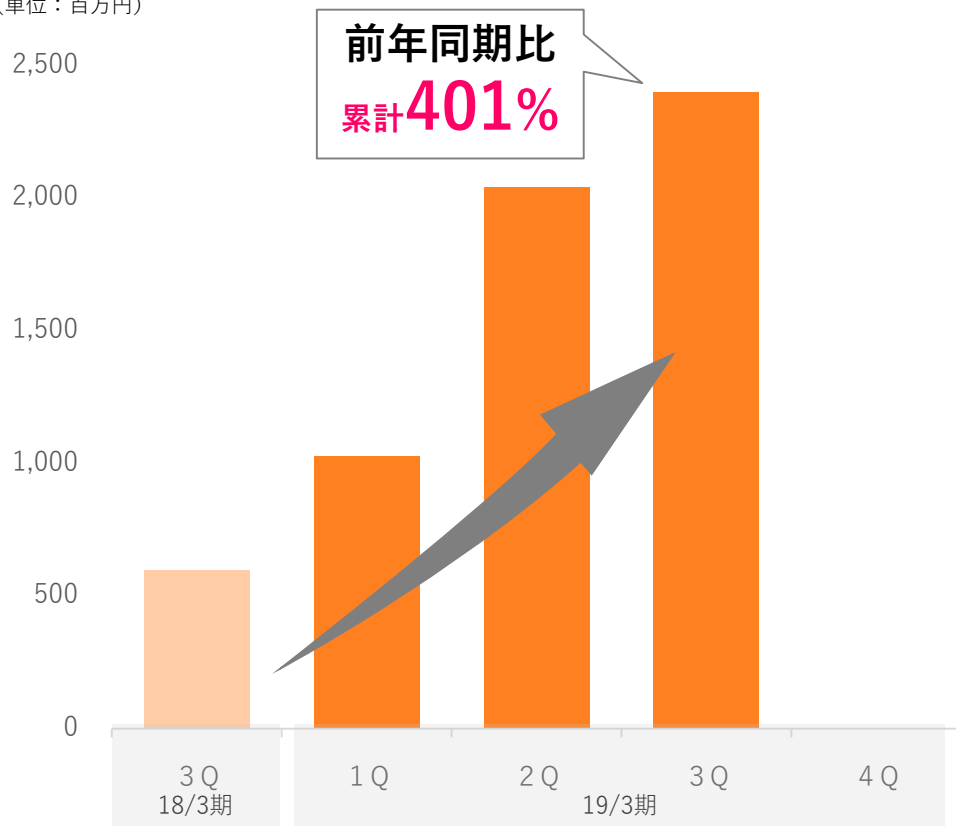
レディスサービス事業：ブランド別トピックス कोरोリー

◆ 契約獲得高及び売上高の推移
 下期より広告出稿量の計画的縮小を実施
 → 契約高及び物販売上高は緩やかに増加、

ブランド売上高は前年同期比280%で推移

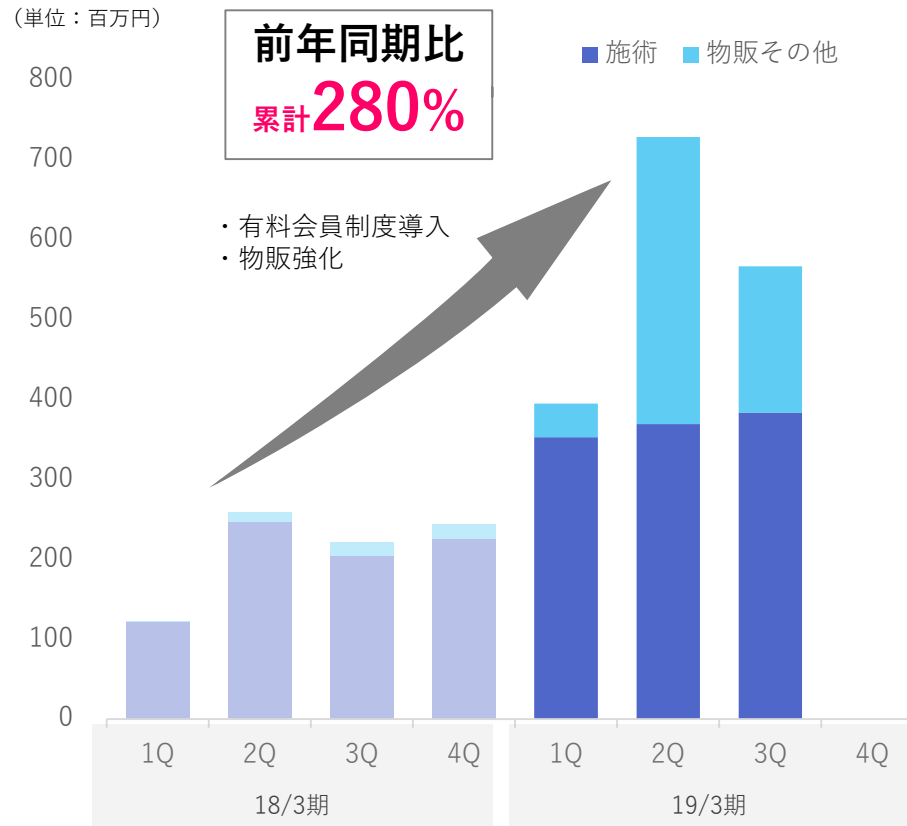
累計契約獲得高の推移

(単位：百万円)



売上高の推移

(単位：百万円)



レディスサービス事業：ブランド別トピックス コロリー

◆今後の取り組み等

2019年4月よりミュゼブランドと統合

両ブランドの資源を最大限に有効活用

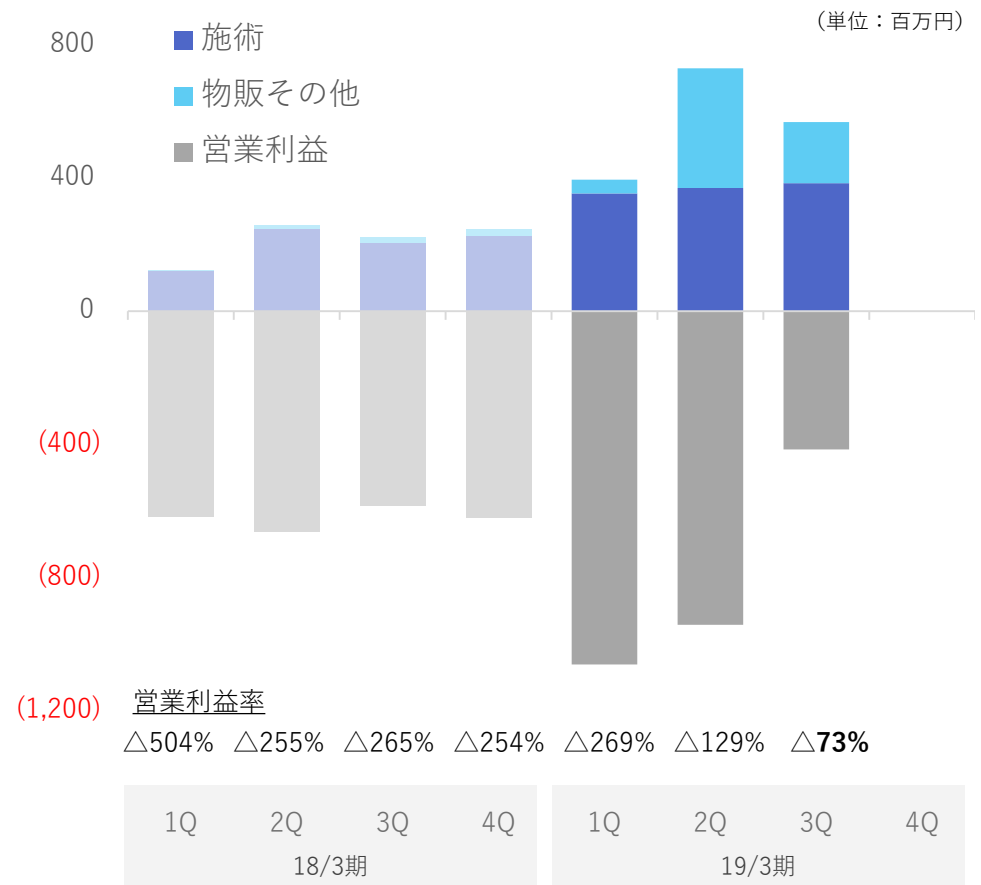
- ・美容脱毛施術の効率化
→人材の相互活用による施術効率向上
- ・単一ブランド展開による
広告宣伝投資の効率化
- ・顧客利便性の向上
→利用可能店舗拡大、予約システム充実



早期の収益向上及び 顧客利便性の最大化を目指す

- ・当期はブランド統一に係る店舗工事によりコロリーブランドの第4四半期契約高及び売上高減少、店舗除却損を見込む

売上高及び営業利益の推移



レディスサービス事業：ブランド別トピックス ラブリークィーン

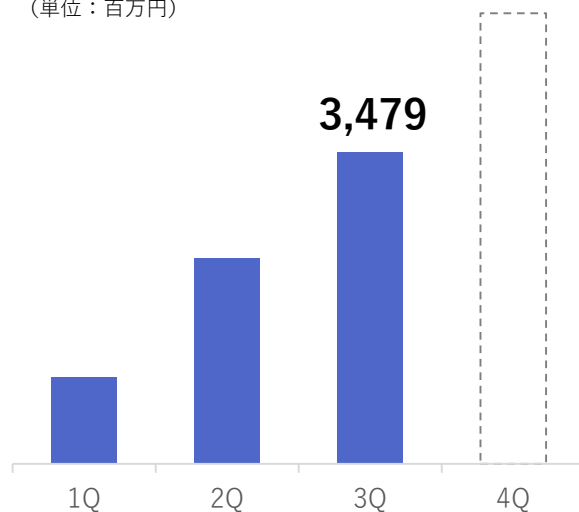
繁忙期に向けてECサイト「TISEE」のリニューアルオープン、 取扱店舗開拓のための営業活動の強化を実施

◆売上高及び営業利益の推移

返品調整引当金の計上、暖冬の影響による冬物カジュアルウェアの販売未達、
ECサイトオープン遅延等により 売上高、ブランド利益は予想を下回り推移

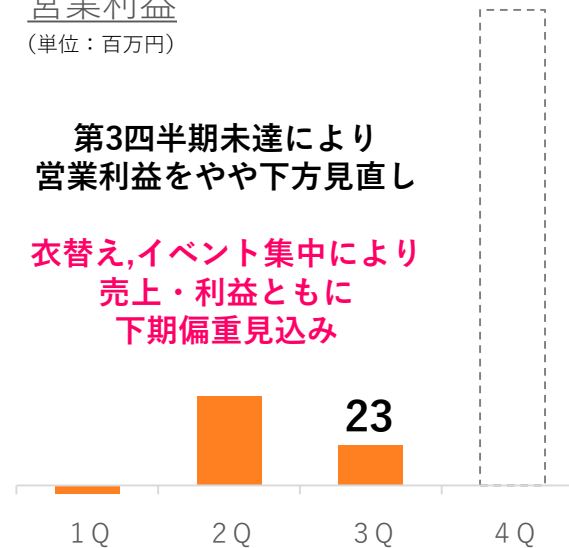
売上高

(単位：百万円)



営業利益

(単位：百万円)



◆新ブランドリリース

レディスカジュアルウェア
新ブランド「Fille invincible」



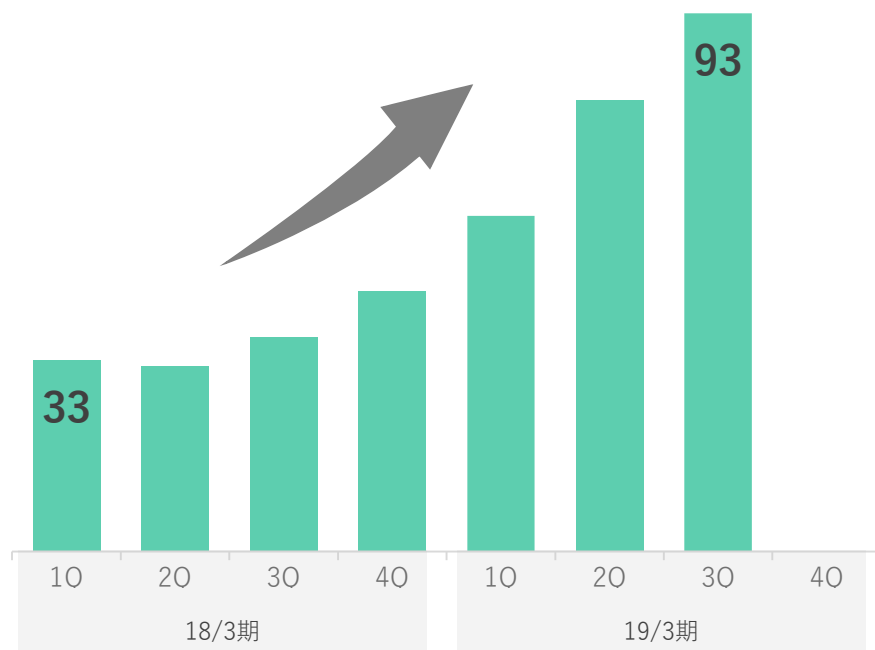
※累計期間で表示

レディスサービス事業：ブランド別トピックス マキア

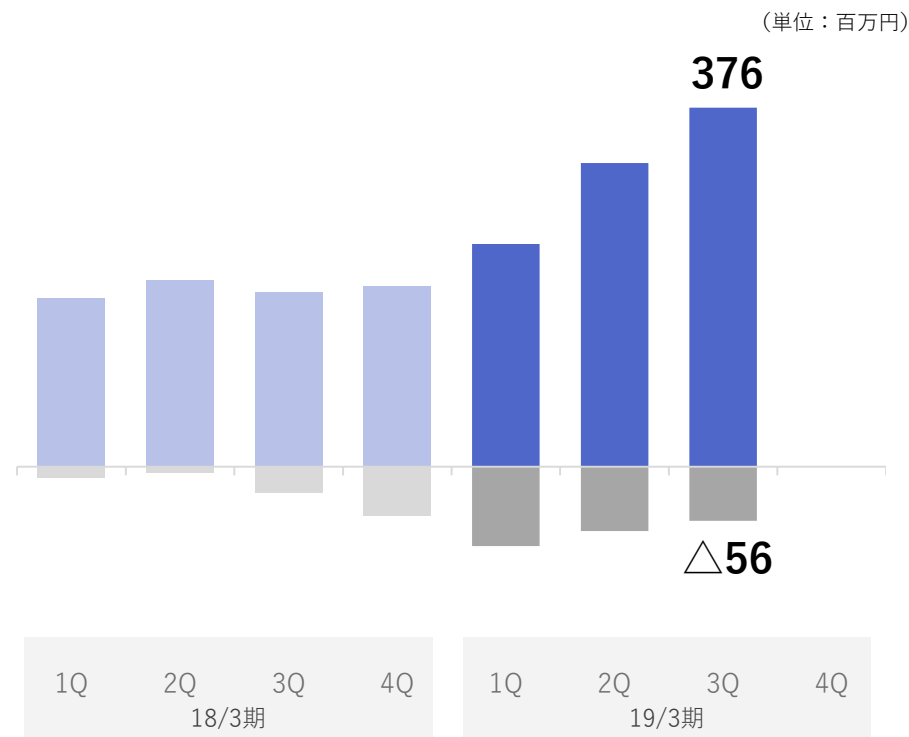
引き続き出店強化、第3四半期は15店舗を新規オープン
売上高は前年同期比167%で推移
新規出店に伴う一時費用発生も、営業利益率改善



店舗数の推移








売上高及び営業利益の推移



レディスサービス事業：ブランド別出退店実績

ミュゼプラチナム、マキアは新規出店強化
たかの友梨ビューティクリニックは統廃合施策を継続

(単位：店舗数)

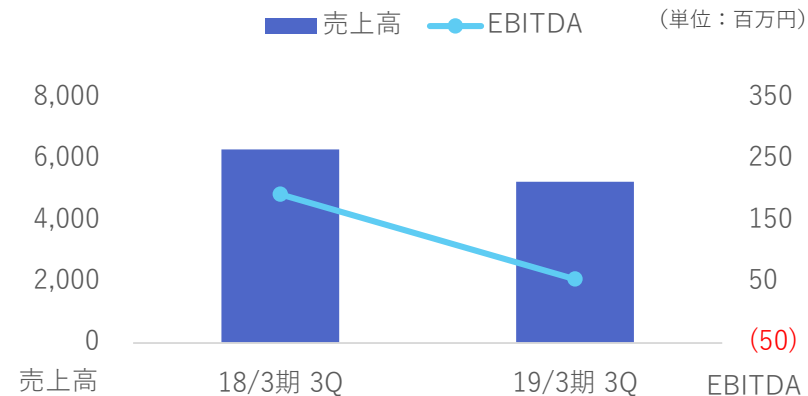
ブランド	19/3期 2Q	19/3期 3Q	出店	退店	増減
 美容脱毛サロン ミュゼプラチナム	174	177	3	0	3
 エステティックサロン たかの友梨ビューティクリニック	88	83	0	5	△5
 全身美容脱毛専門サロン コロリー	60	57	0	3	△3
 アイラッシュサロン マキア	78	93	15	0	15
 レディスフォーマルウェア ラブリークィーン(※)	443	444	4	3	1
合計	843	854	22	11	11

(※) GMS等ブランド取扱店舗を含む

メディア・コンサルティング事業

◆トピックス

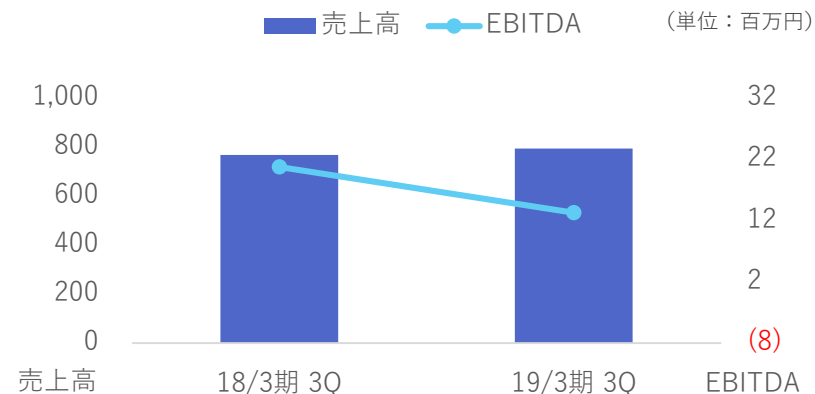
- ・コンサルティング部門、WEBマーケティング部門の外部売上、グループ内WEB広告サービスは引き続き堅調推移
- ・広告代理店部門は子会社株式譲渡により第2四半期末を以て損益を連結から除外
 - セグメント売上高は前年同期比83.2%で推移
 - セグメント利益は前年同期比減益



システム開発事業

◆トピックス

- ・外部売上及びグループ内売上は堅調推移
- ・採用強化による人件費増
- ・FVT-air更改に伴う一時費用増
 - セグメント売上高は前年同期比103.4%で推移
 - セグメント利益は販管費一時増により減益



3. 2019年3月期 第3四半期 通期連結業績予想の修正

2019年3月期通期連結業績予想の修正

美容脱毛部門「通い放題コース」終了告知に伴う駆け込み需要により契約高が伸長更なる顧客獲得のため、第3四半期は広告投資を継続

→来店増加により商品売上・入会金売上増

一方、広告宣伝費・労務費の増加により営業利益は前回予想を下回る見込み

(単位：百万円)

科目	前回予想	修正予想	増減	主な増減要因
売上高	57,290	58,500	1,210	商品売上、入会金売上等が前回予想時点より伸長傾向
営業利益	255	△1,018	△1,273	美容脱毛部門における広告宣伝費、人件費増加 (ブランド統一により来期以降改善見込み)
経常利益	265	△936	△1,201	
親会社株主に帰属する 四半期純利益	△711	△3,145	△2,434	貸倒引当金繰入額308百万円、子会社株式売却に伴う 債権売却損151百万円を特別損失として追加計上

本資料は、当社及び当社グループの企業説明に関する情報提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券の投資を勧誘することを目的としたものではありません。

本資料に記載された意見や予測等は、資料作成時点の当社の判断であり、その情報の正確性・完全性を保証または約束するものではなく、今後予告なしに変更されることがありますので予めご了承ください。

